

令和7年度 福岡美容専門学校 北九州校

学校自己評価 報告書

(自令和7年4月1日 至令和8年3月31日)

福岡美容専門学校 学校自己評価委員

委員長 教頭 井町 憲治

委員 教務企画部長 増田 葉子

広報室長 朝長 宏之

事務局次長 小田 亮介

教務課長 繁田 悠子

教務企画 福原 菜美

令和7年度 福岡美容専門学校 北九州校 自己評価結果

1. 学校の教育目標

本校は、福岡県下 2,700 店舗の美容室が加盟する福岡県美容生活衛生同業組合が設置した美容学校です。後継者を育成して美容業界のさらなる発展に寄与するという理念のもと学校運営を行っています。

<教育方針>

お客様の幸せや喜びのために、常に美容の技術を磨き、お客様に永く愛され、必要とされる人材を育成し、送り出す。

◇基礎・基本技術を備えた人材の育成

◇礼儀やマナーが備わった人材の育成

<校訓>

愛美 ・ 創造 ・ 鍛錬

人を美しくし、笑顔や喜びを提供できる職業に誇りを持ちます。

美容の仕事を通じて、創造力を養い、可能性に挑戦します。

基礎・基本を身に付けるため、『心・技・体』を鍛えます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

すべてのステークホルダーから高い評価と支持される学校を目指す。

迫り来る『少子化』に全職員知恵を出し、対策を立て実行する。

(1) 本校の教育方針

基礎・基本技術を備えた人材の育成

礼儀やマナーの備わった人材の育成

(2) 教育に直接携わる教員の質の向上を図る

(3) 学生募集、充足率 100%を目指す

(4) 国家試験合格率 100%を目指す

(5) 就職率 100%を目指す

(6) 通信生募集のあり方を検討する

(7) ICT（情報通信技術）を活用した授業の促進

(8) 美容組合の歴史や美容業界の教育を行い、業界発展の認識を深めさせる

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価 適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1 】

(1) 教育理念 目標

評価項目	自己評価
A、学校の理念・教育方針・育成人材像は定められているか	4
B、学校における職業教育の特色は何か	4
C、社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
D、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
E、各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

- ・国家試験対策を充実、実践教育の両立が必須である。アイリスト、ネイル、メイク、ブライダル、福祉・介護美容など、多様化する現代の美容ニーズに対応したカリキュラムの充実が課題である。

②今後の改善方策

- ・ニーズに対応するため、業界のプロフェッショナルと連携した講義の充実。
- ・学生自身の意識向上を図るため、課外授業(大会出場、コンテスト出場などを目的とした活動)として学びの場を提供。

③特記事項

- ・教育方針でもある、礼儀、マナーについて、相手への敬意や思いやりの心を、状況に応じて過不足なく適切に表現する力を養うため、入学後早期に研修実施。理念の理解も同時に深めている。

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
A、目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
B、事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
C、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
D、人事、給与に関する制度は整備されているか	4
E、教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
F、教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
G、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・以前より課題となっているワークフローシステムの導入について、ペーパーレス化による経費削減と決裁までの時間短縮のため検討を続けているが、運用開始には至らなかった。
- ・令和 6 年度後半より着手している人事評価制度の見直しについては、令和 7 年度を通じて取り組みを進め、制度設計は固まった。しかし、運用にあたってはさらに理解を深める必要がある。

②今後の改善方策

- ・ワークフローシステムについては、採用するサービスと導入スケジュールを早期に決定させる。
- ・令和 8 年度より組織再編が行われることとなった。新体制の下、部署間のさらなる連携強化を図る。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動

評価項目	自己評価
A、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
B、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
C、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
D、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
E、関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
F、関連分野における実践的な職業教育を目的とした実務実習（インターンシップ）が行われているか	4
G、授業評価の実施・評価体制はあるか	4
H、職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
I、成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4
J、資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
K、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
L、関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
M、関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
N、職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・美容業界での活躍を夢見て本校へ入学してくる学生のため、将来の職業選択肢が増やせるように、よりトレンドに合わせたカリキュラムの見直しが必要である。
- ・教職員の人員については現時点で充足しているものの、余裕がある状況ではなく、将来的な人材確保と業務負担軽減が課題である。
- ・教員に向けた現場技術の習得を目的とした研修や、ICT 授業の質を高めるための研修等を実施しているが、レベル毎や職員全体の能力開発に向けた包括的な研修体制については、さらに検討の余地がある。

②今後の改善方策

- ・現在も実施している定期的な学生アンケートからの意見を参考に、授業内容や進め方を柔軟かつ継続的にアップデートしていく。
- ・教員の働きやすさを向上させることで、定着率を高めるとともに、外部からの新たな人材の応募意欲を促進させる。既存教員のスキルアップやマネジメント能力向上を図ることで、質の高い指導を可能な組織づくりを推進する。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	自己評価
A、就職率の向上が図られているか	4
B、資格取得率の向上が図られているか	4
C、退学率の低減が図られているか	4
D、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
E、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・卒業後の就業状態(定着状況、離職状況など)把握は、現在 Web アンケート、内定先への聴取以外方法がない。より確実な情報を取得できる仕組みが必要である。
- ・就職について、オンライン面接の実施が増加している中で、オンラインスタジオの活用、照明などの設備充実が必要である。
- ・資格取得では、個人個人の学習差を埋める取り組みが必須であると共に、学生個人の意識向上を図るための対策が必要である。

②今後の改善方策

- ・学校と卒業生が継続して繋がれるようサロン訪問の強化を実施。同窓会を開催しているため、在学中に周知させ同窓会の充実を図る。

- ・学習差について、早期の発見、長期の対応が必須となる。節目による習熟度チェックや、個人アンケート実施(学習障害等の把握)により、各個人に合わせた対策を強化していく。

③特記事項

- ・国家試験不合格者について、取得までの全面的サポートを実施。
- ・後継者育成を目的として、卒業生を講師として招き将来構想の一助としている。

入学者数と退学率、就職率、国家試験合格率 資料①										
入学年度	入学者数	卒業者数	退学数	退学率	休学数	就職者数	就職率	国家試験 受験者数	合格者数	合格率
R3 年度生	156 名	132 名	24 名	15.38%		128 名	96.90%	132 名	127 名	96.21%
R4 年度生	160 名	138 名	22 名	13.75%		135 名	97.80%	138 名	131 名	94.92%
R5 年度生	160 名	131 名	28 名	17.50%	1 名	124 名	94.60%	131 名	124 名	94.65%
R6 年度生	160 名	151 名	10 名	6.25%		149 名	98.00%	152 名	143 名	94.08%
R7 年度生	160 名									

(5) 学生支援

評価項目	自己評価
A、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
B、学生相談に関する体制は整備されているか	4
C、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
D、学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
E、課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
F、学生の生活環境への支援は行われているか	4
G、保護者と適切に連携しているか	4
H、卒業生への支援体制はあるか	4
I、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
J、高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

①課題

- ・スクールカウンセリングを導入しているが、利用率は芳しくない。より利用しやすい仕組みの構築が必要である。
- ・高校との連携によるキャリア教育などについて、現在取り組みはあるが、平日開催ということもあり、満足いく人員で対応しきれていない。

②今後の改善方策

- ・カウンセラーの紹介・周知、開催日において対象となる学生が利用しやすい施設、開催時間の設定を行う。

- ・高校との連携を図り、年計画にてキャリア教育、職業教育の計画を検討。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	自己評価
A、施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
B、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
C、防災に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・敷地が住宅地の中にある為、学生の騒ぎ声などで近隣住民への影響が出ないように、学生への学校生活の指導の徹底が必要である。
- ・犯罪等のニュースを踏まえ、本校の防犯の脆弱性が散見される、早急な対策が必要である。
- ・近年需要が高まりつつある福祉美容に対しての教育環境が不十分であり、授業を行う上で設備等を整える必要がある。

②今後の改善方策

- ・校舎出入り口の改修計画
- ・必要な教材や備品を揃え、福祉美容の授業が出来る環境を整備する。

③特記事項

特になし

(7) 学生募集

評価項目	自己評価
A、学生募集活動は、適正に行われているか	4
B、学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
C、学費は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・高校生の美容分野における情報ツールは SNS に偏っている。職業理解および学校生活の中身について、体験型や講話型の説明を通じ、適切な内容を伝えている。
- ・本校においては総額表示にしており、妥当な学費設定であると考えている。現状、物価高騰の影響を受け、教材も高騰しており学費の見直しをせざるを得ない状況である。

②今後の改善方策

- ・映像での職業イメージに加え、具体的な仕事内容や学びを伝えることで職業理解や学校理解が浸透するものとする。また、在校生の声を希望者や保護者に届けることで、より身近な情報を得る機会を設定する。
- ・学費支弁者である保護者を対象とした学費相談会を適宜開催している。このことにより合格後の辞退者数も減少している。上級学校進学を円滑なものにする一助となるよう、今後も継続開催する。

③特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	自己評価
A、中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
B、予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
C、財務に関する会計監査は適正に行われているか	4
D、財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

- ・学校事業における収入のほとんどは学費である。昼間課程において安定した入学者数を確保できていることから財務は安定していると言えるが、今後さらに加速する少子化や、建物の老朽化に備えて引き続き計画的な予算策定が必要である。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

- ・学費に関して、奨学金（給付型）受給者の増加に伴い修学支援制度適用も増加している。修学支援制度適用に際して授業料の減免が複雑化し、学費（授業料）請求の猶予措置や処理に苦慮している。

(9) 法令などの遵守

評価項目	自己評価
A、法令、専門学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4
B、個人情報に対し、その保護のための対策がなされているか	4
C、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
D、自己評価を公開しているか	4

①課題

- ・適正な運営と情報公開を今後も行っていく。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
A、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
B、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
C、地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題

- ・小学生を対象とした職業体験イベント、また進路研究の一助として定期的な受入れを行っている。世代層をより広げることも検討しているものの人員や予算の整備が必要である。
- ・毎月、周辺地域の清掃を行っており、地域へのボランティア活動にも積極的に参加している。継続的な活動となるよう、スケジュール化する。
- ・地域の市民講座に継続参加している。リカレント教育として受講者は積極的に学ばれている。ただし、その他にお声掛けいただくイベントや講座に対してお答えできていない案件もある。

②今後の改善方策

- ・人員とスケジュールの確保は継続的な課題である。現状を維持しつつ、事前に依頼に関する情報整理をすることで、機会を増やせるよう留意する。

③特記事項

特になし

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

項目(1)から(10)に沿って適切な学校運営が行われており、これが近年の安定した入学者確保に繋がっていると考えられる。しかし、少子化による学生募集の競争は激しさを増しており、教育内容をさらに充実させることが不可欠である。

美容業界の発展を支える優秀な人材を輩出し、地域と共に歩む学校であり続けるため、研修等を通じた教職員の指導力向上および組織の体制強化には、今後も継続して取り組んでいきたい。

以上